

強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。波乱含みの(?)センター試験も終わり、いよいよ二次試験ですね。受験生の皆さんは最後の力を振り絞って、妥協することなく合格を目指してほしいと思います。その一方で、現高2生の方は受験まで1年をきったわけです。そろそろ、受験校も定めて取り組んでいきたいところですね。このページを読んでいる皆さんは、東大をはじめとする難関大学の受験を考えていることでしょう。

ところで、生徒からよくある質問で「東大と京大の論述って、どう違うんですか?」というのがあります。そこで今回は「東大日本史のみかたー番外編ー」として、東大と京大の論述問題の違いをテーマにお話ししてみようと思います。いよいよ受験生になる皆さんの受験校決定や今後の勉強の指針になれば幸いです。

それでは今回は「天武天皇」をテーマとした東大・京大の問題を並べて出題してみます。是非、両方の解答を作成してみて、自分なりに違いを感じてみましょう。解説は一週間後です。さあ、しっかり問題を考えてみてください。

【2000年度 京都大学 論述問題1】

天武天皇の時代はどのような時代であったか。いくつかの観点から具体的に述べよ。(200字以内)

【1999年度 東京大学 文科前期 第1問】

次の文章を読み、下記の設問に答えよ。

「天武天皇が、13年(684年)閏4月の詔で『政ノ要ハ軍事ナリ』とのべたとき、かれは国家について一つの真実を語ったのである。(中略)「政ノ要ハ軍事ナリ」の原則には、天武の個人的経験を越えた古代の国際的経験が集約されているとみるべきであろう。」

これは、古代国家の形成について、ある著名な歴史家が述べたものである。軍事力の建設の視点から見ると、律令国家の支配の仕組みや、正丁3~4人を標準として1戸を編成したことの意味がわかりやすい。

設 問

7世紀後半の戸籍作成の進展と、律令国家の軍事体制の特色について、両者の関連、および背景となった「天武の個人的経験」「古代の国際的経験」をふまえて、7行(210字)以内で説明せよ。